

1 計画の位置付け

- ・知床世界自然遺産地域長期モニタリング計画(以下「計画」という。)は知床世界自然遺産地域における順応的管理を効率的・効果的に実施するため必要となるモニタリング項目と内容を定めたもの。
- ・計画は10年一期として、概ね5年毎に計画の継続・変更について検討を行うとされている。
- ・現計画は平成24年度(2012)～平成34年度(2022)、計画から5年を経過したことから変更について検討を行う。

2 科学委員会で決定した見直しの進め方

平成29年度(2017)～平成30年度(2018)
の2力年で実施

平成29年度(2017)作業

- ① 各モニタリング項目の中間総括
(評価基準に対する評価等)
- ② 見直しが必要な箇所の抽出
(モニタリング手法の改善、削除、追加等)
- ③ 計画(本文)の点検
(計画の各項目について現況を踏まえ変更箇所の抽出等)

平成30年度(2018)作業

- ① 計画見直しの方向性の検討
- ② 計画変更案の検討

3 河川APでの進め方(平成29年度(2017))案

① 第1回目河川AP

- ・計画見直し作業のスケジュールについて説明

各委員にmail等を通じて事務局検討案を提示

② 第2回目河川AP

- ・これまでの調査結果を踏まえて中間総括を行う。
- ・事務局として見直しが必要と思われる箇所の提案
- ・上記に連動して計画本文の点検(案)の提案

知床世界自然遺産地域長期モニタリング計画の見直しについて

■計画の位置づけ

- ・知床世界自然遺産地域長期モニタリング計画（以下「計画」という。）は、知床世界自然遺産地域における順応的な管理を効率的・効果的に実施するために必要となるモニタリング項目とその内容を定めることを目的に、2012（平成24）年2月に策定された。
- ・計画期間は10年を一期とし、概ね5年毎に計画の継続・変更について検討を行うこととされている。

第1期：2012（平成24）年4月～2022（平成34）年3月

- ・計画は2015（平成27年）2月に改定されている（評価基準等の一部変更）。

■見直しの位置づけ

- ・計画策定から5年が経過したことから、計画の変更について検討を行うもの。

■見直しの進め方

- ・2017（平成29）年度及び2018（平成30）年度の2カ年で見直しを行う。
- ・科学委員会及び各WG等における議論のほか、適宜ML等を活用して計画的に検討を進める。

<スケジュール案>

2017年（平成29）年度

- 第1回科学委員会 計画の見直しの進め方等
- 第2回科学委員会 各モニタリング項目の中間総括
計画の見直しが必要な箇所の抽出等

2018年（平成30）年度

- 第1回科学委員会 計画の見直しの方向性
計画の変更案（たたき台）
- 第2回科学委員会 計画の変更案
→改定

■2017年（平成29）年度の主な作業

○各モニタリング項目の中間総括

- ・各モニタリング項目について、これまで実施してきた結果を整理した上で、それぞれ設定された評価基準に対する「評価」を行う。
- ・計画で設定された評価項目（Ⅰ～Ⅷ）について、該当するモニタリング項目（複数）の結果から、どのようなことが言えるかを整理する。

○見直しが必要な箇所の抽出

- ・中間総括の結果を踏まえ、各モニタリング項目について、見直しが必要な内容の抽出を行う。

※見直しが必要な内容の例：

- ✓ モニタリング手法の改善、モニタリングの評価基準の変更
- ✓ モニタリング項目の削除（モニタリングが実施されておらず今後実施の見込みもない、モニタリングを継続しても適切な評価ができない）。
- ✓ モニタリング項目の追加

○計画（本文）の点検

- ・計画の各項目（目的、基本方針、評価の手順、計画の枠組み、別表）について、現状を踏まえ変更が必要な箇所の抽出等を行う。

<各WG等及び事務局の作業>

- ・第1回科学委員会において、計画の見直しの進め方等について了承された後、各WG等で担当するモニタリング項目について作業を進める（中間総括、計画の見直しが必要な箇所の抽出等）。
- ・各WG等の第2回会議において、モニタリング項目の中間総括及び計画の見直しが必要な箇所の抽出等を行う。
※第2回会議までの間に、ML等を活用して委員からの意見聴取を行う。
- ・科学委員会担当分のモニタリング項目及び計画の点検に関する作業は、科学委員会委員の意見を聴きつつ作業を進める。
- ・第2回科学委員会において、各WG等からの報告を踏まえた議論を行う。